

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0971000450		
法人名	特定非営利活動法人 あすなろ友の会		
事業所名	グループホームあすなろ		
所在地	栃木県大田原市佐久山2274番地5	電話:	0287-28-3676
自己評価作成日	平成30年10月15日	評価結果市町村受理日	平成31年 2月14日

**※事業所の基本情報は**

基本情報	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php</a>
------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	ナルク栃木福祉調査センター		
所在地	栃木県 宇都宮市 大和 2-12-27 小牧ビル3F		
訪問調査日	平成30年11月22日	評価確定(合意)日	平成30年12月18日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

当ホームは1年を通して四季を感じて暮らせ、慣れ親しんだ風景の中で安心して暮らせる環境の提供に努めております。利用者一人一人の思いを大切に、日々のちょっとした願いを聞き入れられるよう、日中活動も柔軟に対応できる支援を行っています。地域の高齢者や当法人で運営する学童の子供たちと季節折々の行事の中でも交流を深めています。月2回外部より講師を迎え、介護予防体操を取り入れて、利用者の運動機能維持また向上の一役を担っており、とても楽しいとご好評いただいております。[地域と共に歩む]という理事長の理念を基盤として、佐久山の地に根ざした運営をすべく日々を職員全員一丸となって取り組んでおります。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

平成17年開設の、運営母体はNOP法人あすなろ友の会でデイサービス、学童保育館などいくつかの福祉施設を敷地内で運営している事業所です。理事長はこの地域に開業する内科医で利用者全員のかかりつけ医であり、毎週月曜日の訪問診療は本人、家族の安心に繋がっている。施設長は行政や同業者と緊密な連携を取っており多くの情報が運営に生かされている。運営推進会議は、利用者、家族、家族会会長、地域行政関係者など8名で定期的に開催されている。事業所の報告、各委員からの連絡や情報提供があり、意見交換も行われている。加算は受けていないが家族から看取りの要望が強く事業所の「看取りに関する指針」により看取りをしている。去年は3名の看取りをし家族から感謝されている。自然環境に恵まれ慣れ親しんだ地域の中で共にゆったりと明るいケアに職員が一丸となって取り組んでいる事業所です。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームでの事業を運営する中で、理念が8項目あり毎日唱和していたが、現在法人内4事業を展開しており、役員や各事業職員が大切に思っている事を包括的にまとめ、共通する理念を検討中。	開設時作成した理念で「ゆったりと明るいケア」「笑顔でするケア」など8つケアを理念としている。毎朝の朝礼やその他全員が集まる機会にも唱和し意識付けをしている。利用者のペースに合わせた「ゆったり」としたケアを笑顔での支援に努め実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の高齢者ほほえみセンターご利用の皆様との交流会を継続している。また小学校運動会や餅つき大会に招待を受けたり、ホームでのふれあい祭りに招待したり継続的な繋がりが出来ている。	小学校とは運動会、餅つきに招待を受けたり、事業所のふれあい祭りには招待するなど交流を続けている。地域には回覧板やチラシで参加を呼びかけている。自治会の総会、新年会に加え神社の注連縄作りや清掃活動などの行事にも積極的に参加している。また、地域の高齢者ほほえみセンター利用者との交流会も継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者は近隣小中学校へ認知症サポーター養成講座の講師として講話させて頂いている。また佐久山地区社協で行っている地域の独居また高齢者世帯の方への給食サービスにも、月1回参加させて頂いている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月に1回定期的に行われ法人内各事業の報告をしている。意見、情報交換の際にはホーム行事等に対する温かい助言・協力を頂いている。	年6回定期的に利用者代表、家族会代表、自治会長、民生委員、市、社協、地域包括の職員が出席して定期開催している。事業所からの利用状況の報告後、市、社協など各委員からの報告や情報提供があり、意見交換も行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者は日頃の関わりに加え、一昨年は法改正による〔日常生活支援総合事業〕における協議体構成員を委嘱され、移送関連のプレゼンをしたり、定期的な会議にて事業所として貢献できることなど情報交換を密に行った。また、行政向けに地域支援事業についての勉強会を開催した。	市職員は運営推進会議にも出席しており事業所の実情やサービスの取り組みを伝える機会になっている。行政の各種事業の委員に毎年委嘱されるなど市との日頃の協力が出来ており、気軽に相談できる関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者より日頃から指導があり、管理者や職員はその理解に努めている。利用者様お一人おひとりに細心の目配りが出来る様又、利用者の行動を不用意に抑制する事がないよう心掛けている。	職員間で随時話し合ったり、年間の研修会のテーマとして取り上げ全職員が理解を深めている。外出願望のある利用者には見守りの徹底と時には庭の草むしり、散歩で対応をしている。寝たままの状態では体動が激しくベッドから転落の危険がある利用者に家族、行政、医師と相談しベッド柵を使用しており対策については関係者間で検討をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	関連図書の観覧をし虐待に関する知識を深めている。日頃から職員同士、ご家族とのコミュニケーションが密に取れるよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者やそのご家族との関わりの中から、また職員会議等の機会に学べるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間を掛けて、ご理解いただけるまで説明させて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族との関わりの中で、その機会を設けている。	家族からは主に担当の職員が関わりの中で聴きだすようにしているが、利用開始間もない利用者が多く、事業所での生活に対する心配な点の質問がほとんどになっている。運営推進会議の委員である家族会会長から、ふれあい祭りにバザーを取り入れてはとのアドバイスがあり運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回開催している職員会議の他、必要時には随時話し合う機会を設け反映出来る様にしている。	月1回の職員会議に加えて日常的な課題を取り上げるカンファレンスも随時設けたり、更に現場においても気が付いたことがあれば些細な事でも聴き迅速に対応している。職員からの勤務時間に関する要望などは可能な範囲で対応に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は理事会での事業、運営報告を通じてその状況や職員の勤務状況を把握している。また、こまめに来訪し現状把握に努め職員とのコミュニケーションを図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社会福祉協議会での専門研修計画書に基づき必要な職員が必要な研修を受講出来るようにしている。また、グループホーム協会や市、関係機関で開催される研修にも必要に応じ参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、全国認知症グループホーム協会栃木支部また栃木県高齢者認知症グループホーム協会の理事を務め、職員もその交流や情報交換の機会を設ける他、法人で開催する講演会等で招いた講師や同業種の方との交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込み受付時にご家族や関わっている事情所の方よりご本人の情報を収集している。また、見学も兼ねて来訪頂き面談をしたり、必要に応じて自宅などの訪問をしたりしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族とは入居面談時によく話し合い、本人や家族の希望を受け止め説明を行い信頼関係を築いている。入居後も入居者の状態を適宜報告している。本人や家族の希望に沿える様な支援を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時には特に現在の状況を聞き、早急な対応が必要な際には法人、内外と連絡を取り利用出来る所を紹介するなどの対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はホームを家と考え、家族の一員として言葉掛けにも配慮している。アットホームな雰囲気大切にしながら、お互い助け合って生活していると思っ頂けるように自分のできる事はお願いし暮らしを共にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	こまめに状態の報告を行い、家族の訪問時には家族と利用者が共に楽しく過ごせるような空間作りを心掛けている。いつでも気軽に来て頂ける様、職員は常に心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	小学校の運動会・産業文化祭などに参加し顔見知りの方々と話せる機会を持っている。ご本人やご家族、また自治会長さんや民生委員の方より頂く情報を基に馴染みの人や場所の把握に努めている。	個別支援として希望により自分の畑に行きネギを沢山収穫してきたり、観劇後温泉に入り道の駅で食事をするなど馴染みの場所に出かけている。また小学校の運動会や産業文化祭などで顔見知りの方々と話をする機会もあり、馴染みの人や場と関係継続の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症レベルや性格などを理解し交流を図れるような場面作り、関係性を保ちながら共に生活出来る様に支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後も入院または入居先の関係者と連絡を取り合いながら必要な対応をしている。退居された後も家族会の元会長さんは、今年のふれあい祭りに手伝いに来てくれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別ケア時に本人の思いをじっくり傾聴し希望や意向を把握し共有出来ている。本人の希望に沿える環境に近付ける様職員全員で検討し支援している。情報は記録に残し共有出来ている。	日常の会話、表情、行動や担当職員によるケアの関わりのなかで暮らし方の希望、意向を汲み取るように努めている。豆乳バナナジュースを朝夕飲む、折り紙が得意、ボタン付けを得意とする利用者など一人ひとりの思いを受け止め、意向に沿った支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には本人・家族・ケアマネなどから生活歴、趣味などの把握に努めている。また、家族とも話しやすい関係を築き昔の話などを聞きサービスに活かせるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中からお一人お一人の心身の状態を観察し定期的にモニタリングやアセスメントをしながら現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は6ヶ月を基本に短期目標をを設定し、モニタリングを実施している。状態が悪化したしたり、入院治療など変化のある時にはその都度見直しを行っている。	介護計画は定期見直しを2年を基本に作成しておりモニタリング、短期計画は原則1年にしている。カンファレンス会議は月1回実施している。県の指導もありアセスメントを随時センター方式から宮城方式へ変更しており定着を図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化や気づきなど個別に記録し残している。申し送りノートを活用し職員間で情報の共有を図り介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	理事長が医師のため、医療的フォローの要望が多い。医療機関との連携が取りやすく状態や症状に合わせた受診や検査及び治療が円滑にしやすい。嘱託医を理事長が兼務し医療フォローに焦点をおいている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	法人を挙げて地区社会福祉協議会や地域の見守り組織「佐久山おもしろ隊」の方々と連携・協働を積極的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的且つ突発時受診や往診は、施設独自の連絡様式を使い円滑である。また嘱託医による定期回診も継続している。他医療機関での受診・検査が必要な時の対応も随時できている。	全員が協力医をかかりつけ医にしている。毎週月曜日の訪問診療では前日の夕方までに専用の用紙で利用者の状況を医師に提示し、当日医師はカルテを持参して診療をしている。更に、急な発熱などでの往診も可能であり本人、家族の安心に繋がっている。他科医療の受診が必要な場合は家族対応にしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内看護職とかかりつけ医の看護職が密に連絡を取り合い健康管理にも注意を払っている。協力医療機関にも入居者の状態を定期的に報告し、連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族の状況によっては事業所が家族の代行をしたりして、医療関係者との関係作りに努めている。又ご家族とも連絡を取り合いながら利用者ご家族に安心して頂けるよう努力している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者時に重度化やターミナルについての対応や指針を説明し同意を得ている。症状の変化に応じて主治医、家族施設で話し合いをもち方針を共有しながら支援するよう努めている。	看取り加算は受けていないが、家族からの要望が強く、入所時に看取りに関する指針を説明し同意を得ている。平成28年に初めて1名の看取りをし、昨年は3名の看取りをしている。家族との最期の時間が穏やかなものになるよう支援し家族からも感謝されている。	実際に体験した看取りの経過をさまざまな角度から振り返り、記録に残し次回に生かすことを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応については常に職員と話し合いを行い慌てずに対応するよう指導している。AEDの設置もしている。理事長兼委託医の指示の下初期対応について適宜話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自治会長をはじめ、近所の方々や駐在所、公民館また地元消防団との交流を図り、緊急災害時の協力を依頼している。また、年2回の消防避難訓練時にはホーム内外の安全点検に努めている。今年8月には地域防災訓練にも参加した。	年2回、12月・8月に避難訓練を実施し、8月には市の防災訓練と並行して実施し車で公民館に避難をしている。AEDの講習、煙ハウスの体験もしている。夜間想定訓練は12月に実施予定をしている。災害に備えて石油ストーブや、灯油、カイロ、レトルト食品、水3日分を備蓄している。	訓練後は反省会で課題を明確にし、次の訓練に活し全職員が臨機応変な対応ができることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生活全般においてプライバシーに関する支援については個人情報保護はもとより、本人を尊重した声掛けを行い対応している。	利用者は人生の先輩であることを常に意識し、敬う心で支援している。話すときには視線を合わせ、特に言葉遣いは失礼にならないように気をつけ、職員間でもお互いに注意し合っている。呼びかけは状況によっては家族に確認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の表情や言葉をしっかり感じ取れるよう常に心がけ、自己決定をしてもらえる環境作りに配慮するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日決められた事をするのではなく、毎日楽しく笑顔で過ごして頂けるような支援ができるよう努めている。ご希望があれば季節の変わり目などの衣替え洋服等買い物に出かけたりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は自分で洋服を選んで着替えられる方もいるが、出来ない方については職員が対応している。爪切りや髭剃りなどチェック表を用いて衛生面においても適宜支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者に出来ることは手伝って頂いている。テーブルを拭く又調理の下ごしらえと一緒にやっている。嗜好品、食べたい物の聞き取りをし、外食なども楽しめるよう心掛けている。	調理士の免許を持った職員が中心になって食べたいものを聞き取り、献立に活かし交代で食事を作っている。季節の料理、郷土料理も取り入れている。利用者には野菜の皮むきやいんげんの筋取などを手伝ってもらうこともある。月一回のバイキングや個別の外食は好評を得ている。食器洗い、テーブル拭きは人気で交代で手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	かかりつけ医嘱託医によるアドバイスを受け都度の指示の下、支援にあたっている。水分量の少ない方には容器や飲み物を工夫して摂取出来るよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けを行い口腔ケアを促している。自力で出来る方には見守り対応し確認を行っている。義歯や歯のない方には口腔ティッシュやスポンジなどで対応している。義歯の方は夜間洗浄液に浸している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	表情や動作で排泄のサインを出している方もおられ、基本はトイレで行えるように支援している。自発的動作が少しでもできる方は、定時で誘導したり声かけをして個々に応じた支援を行っている。	完全介護の利用者が2名いる。他は排泄パターンの活用と表情や動作のサインを察知し、さりげない声掛けで個々に応じたトイレ排泄の支援をしている。昼夜共自立排泄者3名で、布パン使用者が1名で他はリハパンを使用している。夜間オムツ使用者は3名で睡眠を優先にし排泄のために声掛けなどはしていない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤を使用して排便コントロールしている方が多い。出来るだけ自然排便が促せるよう日頃から運動や腹部マッサージ、食事やおやつ時間に牛乳やヨーグルトなどの乳製品の提供をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	浴室は毎日開放し、全員の方がそれぞれのペースで入浴を楽しめるよう努めている。入浴を好まない方には、声掛けを工夫しスムーズに入浴出来るよう個々に合わせた支援を行っている。	希望の時間に毎日でも入浴できるようになっているが2日に1回がほとんどで1名が毎日入浴している。午前と午後湯の入れ替えをしている。女性の利用者には同性介助をしている。入浴を嫌がる利用者には介助の職員を変えたり、声掛けを工夫するなど対応をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は思い思いの場所でテレビを見たり、他者との会話を楽しんだり、時には居室で静かに休憩したり、ストレスにならないよう安心して過ごせるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬専用ファイルに説明書を保管し、変更があれば都度差し替え、何時でも確認出来るようにしている。用法について注意点があれば申し送りノートで職員間で共有できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人に応じた楽しみを見つけるため、聞き取りを随時している。卓上ゴミ箱折りをする方や余暇の塗り絵を楽しむ方など日々の楽しみに繋がるよう支援している。外出の際には行き先の配慮をしている。また、季節の行事を皆で手作りしたりして楽しめる心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月1回の外出の他、日々の散歩また個別外出の計画を立て実施している。ご家族の協力も頂き、行きたい場所へ外出出来るよう支援している。	天気の良い日には日常的に事業所周辺を散歩している。年間計画では季節の花見、鮎狩り、リンゴ狩り、初詣などを計画し実施している。希望に応じて寿司屋などへ出かける個別支援も実施している。家族の協力を得て外出をする利用者の支援をしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出や買い物の際には、個々のお小遣いを持ち職員が付き添ってお金を使えるよう支援している。お小遣いの使途については毎月出納帳を送付し報告をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族とお話したい要望があれば、その都度電話をおつなぎし、話をして頂けるよう支援している。また家族などから電話があった時にも、ゆっくり話して頂けるよう配慮している。家族からの手紙を代読して喜んでいただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先やホールには季節の花や置物などで季節感を出し、居心地の良い空間作りを心がけている。季節の花を植え楽しんで頂けるように工夫している。	玄関先に隣接の小学校からプレゼントされたフラワーポットに咲いた菊の花が季節感を出している。居間と食堂は兼用となっており、吹き抜け天井は解放感がある。一角にキッチンがあり家庭的な雰囲気がある。同じフロアにある和室には掘りごたつがあり全員が一緒に寛げる場所になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間やリビングでおしゃべりをしたり個々の居室でゆったりくつろいだり自由に出来る環境作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビや使い慣れたタンス等、個々馴染んだ物を持って来て頂いている。独居でいた方の中には、位牌や遺影などを持ってきている。家族写真などは壁に飾り、居心地の良い空間作りを工夫している。	部屋は掃き出し窓付きの部屋で2部屋が縁側付きの和室、間取りの異なる7部屋が洋室で全室ベットを使用している。収納場所が2カ所あり部屋全体がきれいに整頓されている。清掃は午前中に同法人の隣接学童保育館の職員が担当している。愛用の小物や位牌、遺影を持ち込んでいる利用者もおり自分なりの空間を演出している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口には花の名前を表札にし、また名前を書いたりして自分の部屋と馴染み親しんでいただけるよう配慮している。出来るだけ自立歩行できるよう出し支援している。歩行器、車椅子歩行の方は絶えず見守りをして行先の確認をしている。		